

新春スペシャル座談会

当社代表取締役社長荒賀誠が山崎善也綾部市長と ポプラ社の前社長奥村傳さん・現社長千葉均さんをお迎えして「つなげる大切さ」を語り合いました

当社は創業以来、地域に貢献することを企業理念に謳い、近年はサステナビリティ経営を推進しています。新春スペシャル企画として3人のゲストをお招きして、当社代表取締役社長と次代、次々代のために守るべきものを「つないでいく」大切さを語り合っていました。

綾部の新しい図書館はワクワクがいっぱい

荒賀誠当社代表取締役社長（以下：荒賀） きょうは出版社ポプラ社前社長の奥村さんと現社長の千葉さんが綾部に来られるということで、急遽、山崎善也綾部市長も交えてのお話の機会を設けていただきました。リニューアルオープンした綾部市図書館を視察されたのでしたね。

奥村傳ポプラ社前代表取締役社長（現NPO法人絵本文化推進協会理事長 以下：奥村） 今から10年前、2014年に『人生の「ねじ」を巻く77の教え』という書籍、これは日東精工さんの社員向け人財教育テキストを一般向けに再編集したのですが、この本をポプラ社から刊行しました。日東精工さんがこの書籍の印税をもとにポプラ社の児童書を購入し綾部市図書館へ毎年寄贈されていて、この寄贈式関連で何度か綾部に来ているうちに、図書館の館長さんやスタッフさんとも懇意になり、ステンドグラスの作品展や絵本の読み聞かせ会などのイベントをご一緒するようになりました。新しい図書館もいのちのいちばんで見なければと思って、ポプラ社の現社長、千葉さんをお誘いして、綾部にまいりました。

千葉均ポプラ社代表取締役社長（以下：千葉） 明るくてワクワクする仕掛けがいっぱいの図書館でした。じつは私は今、子どものためにいろいろな活動をされている地域の人取材して「ポプラ



左からポプラ社千葉均社長、山崎善也綾部市長、当社代表取締役社長荒賀誠、奥村傳NPO法人絵本文化推進協会理事長

社通信」という形で発信しております。地方をいろいろまわってお話をうかがっていると、その土地土地にほんとうに素敵な人がいて、それぞれ得意分野をおもちなのですが、その才能が生かされずに埋もれているケースが案外多いのです。発表、発信の場がないから結局、知る人ぞ知る、まさに限られた世界になってしまっているのですが、この綾部の新しい図書館は地域のいろいろな方を巻き込んで広がりをもっていく……そういう発信の場、コミュニケーションの場にもなっていくのだろうと、いろいろな可能性を感じました。

山崎善也綾部市長（以下：山崎） 図書館設計の第一人者が徳岡設計の藤代義丈さん。その藤代さんが「いやあ、まいりましたよ。鬼のようにリクエストがたくさんあって」とユーモア交じりに挨拶されていました。あれこれいろいろと注文を繰り返したスタッフ。言葉を代えればそれだけ図書館愛の強い、想いあふれる図書館スタッフがおりまして、どこにも負けない素晴らしい図書館になったと自負しています。

荒賀：奥村さんがおっしゃったようにこれまで当社では児童書を贈呈してきたのですが、今回の図



当社代表取締役社長兼COO
荒賀誠

書館リニューアルに際しては新しい取り組みをしたいと考え、最初は本棚を寄贈するというで進めていました。今、山崎市長がおっしゃったことにリンクしますが、どんどん設計が変わっていくなかで、御要望も変わってきて、ふつうの書棚ではおもしろくない、図書館をぐるぐるまわってもらおうと楽しくなるというイメージを膨らませるために、それに合うような汽車の形をした紙芝居を収納するワゴンをお贈りすることになりました。

奥村：床に列車のレールが描かれていましたね。「この図書館は循環型図書館です」と前館長の生駒彩子さんがおっしゃっていました。本を読みに来る、本を借りる目的で来たのだけれど、なんかあそこのスペースもおもしろそうだ、あちらではイベントをやっていて興味がそそられる、なんだか気になることがいっぱい、結局、図書館をあっちこっちまわる……ということのようですね。汽車のワゴンは動かないけれど、汽車に抱きついたり、乗ったたりするお子さんもたくさんいて、またそばにはトンネル型のベンチスペースがあって、子どもだけでなく大人も楽しくなってきます。

荒賀：静かに本を読みたい人には静読室があり、

机の前はガラス張りになっているのですが、イスに座って前を見ると山の稜線が目の前に広がります。だから本を読むのに疲れたときはボーッと外を眺めているだけでも癒されそう。これは都会の図書館ではあまりみられないでしょう。ただ楽しいだけではなく、メリハリがありますね。

山崎：綾部市は12地区あるのですが、その全貌が一目でわかる大きな地図パネルも設置しています。そのパネル全体がマグネットになっていて、そこに、それぞれのエリアのイベント情報などを磁石でくっつけることもできるようになっています。〈ふるさとコーナー〉というのは、じつは地域の方があまり立ち寄らない〈図書館の墓場〉などといわれるそうなのですが、そんなふうにはならないように、地域の方が自分の暮らすところに愛情と誇りをもてるように工夫しました。

ワクワクしている姿を見せることで 共感が生まれる

荒賀：奥村さんはあやべに何度かお越しになられていますが、千葉さんは今回が初めてだったかがありました。きょうはまちなかだけでなく、郊外、里山のほうまで足を運ばれたそうですね。

千葉：たくさんの方のIターンの方がおられる集落、志賀郷をご案内いただきました。金田克彦さんという大工さんで農家民宿を営まれている方にお話をうかがいました。

山崎：綾部市は「移住立国あやべ」と謳って、移住希望者（Iターン）に向けたさまざまな施策を展開しています。移住といっても、ただ住む場所・家を見つければいいというわけではなく、仕事はどうする、学校は、病院はとさまざまな要素



当社が寄贈した汽車型紙芝居収納ワゴン



綾部市の地図は全体がマグネットになっている

が絡んできます。それをこれはこの部署、これはあの部署というような縦割り対応だと、移住を希望の人には煩雑で不便極まりないでしょう。それで「定住交流部」という専門部署を設けています。移住されて「農家民宿」をされる方も増えてきて、30軒近くあるでしょうか。そしてその農家民宿をひとつにまとめるネットワークもできていますね。

千葉：そのひとつで話をうかがったわけですが、金田さんはIターンの方を中心にいくつかの農家民宿と一緒に「小さな谷の小さなくらし（略してチータニ）」というプログラムをされています。これはひと言でいうと「子どものための農業体験」なのですが、ただ単に〈田植えをしました、芋掘りをしました〉という1回限りのものでなく、1年間を通したプログラム、毎月1泊2日で行う密度の濃いものです。

大豆を育て収穫し味噌をつくったり、もち米を栽培し、それで餅つきをしたりといった栽培収穫加工のプロセスを体験するだけでなく……、雑草取りだって大事だし、水路が落ち葉やゴミでつまっていないかを確認して掃除することも大事です。あるいはネイチャーガイドさんを招いて、この鳴き声は〇〇といったように植物や動物の生態も一緒に学んで、五感で自然やくらしを感じてもらえるものです。

最初は子どもが田植えをしている姿をお母さんやお父さんがスマホで一所懸命撮影されている。



綾部駅北口に図書館と地域交流センター（ホール）、そして子育て交流センター（あやっこひろば）が入る複合型施設「あやテラス」が2023年11月25日にオープン。図書館は旧図書館の約2・5倍の広さで、収蔵可能冊数は12万冊。エリアが知識の森、絵本の森といったように分けられ、図書館そのものが森のようにどんどん育て広がっていくことを目指している

山崎善也綾部市長。綾部高校から九州大学へ進学。日本開発銀行（現・日本政策投資銀行）に勤め国際統括部長として世界を舞台に活躍後、綾部市にUターン。市長自身が「新しい田舎生活」の実践者。現在市政4期目



しかし子どもはしばらくするとその作業に飽きてくる。でもやるべき仕事は残っている、はかどらないから、仕方がないからお父さんやお母さんも田植えに参加することになるのだけれど、いつの間にか親のほうが夢中になって楽しんでやっている。そして、その大人が楽しんでいる姿を見ると、俄然、子どもたちの目が輝いてきて、また一緒に熱心に取り組むようになる、というような話をうかがいました。私は常々、子どもにとっていちばん大事なことは親が働いている、生き生きしているところを見せることだと思っています。



職業体験「あやザニア」では小学生に紙粘土でのねじづくりを通して、楽しみながらねじの仕組みや大切さを学んでもらった（2023.10.14 日東精工にて）

荒賀：当社でもお子さんを対象にしたプログラムをいくつか用意しています。「ジオカルテ」という地盤調査機で実際に穴を掘ってもらいながら、SDGsについて考えるというイベントを夏休みに実施したほか、秋には商工会議所の青年部との連携で「キッザニア」ならぬ「あやザニア」という子どもの職業体験プログラムにも協力して、小学生が紙粘土でねじをつくったり、0.6ミリの小さなねじ締め体験なども行ったりして、大好評でした。千葉さんが今、おっしゃった、働いている姿を子どもに見せるということは本当に大事だと思いますね。コロナでいったん中断していましたが、働く姿を子どもたちに見せる、工場見学なども復



古くは「江戸川乱歩」シリーズや「ズッコケ三人組」若い世代には「かいけつゾロリ」をはじめ「おしりたんてい」などのロングセラー、ベストセラーでおなじみのポプラ社代表取締役社長、千葉均さん。千葉さんは「ポプラ社通信」(連載「こどもの学びが未来をつくる ポプラ社社長・千葉均が見る・聞く・話す」)で、全国各地で子どものための先進的な取り組みをしている自治体や団体取材し、発信されている



詳しくは
▲QRコード

活させていければと思います。

奥村：今は親が用意しすぎる、与えすぎる傾向にあるけれど、子どもはいろいろなものを見立てながらどんどん想像を膨らませていきます。与えるという上から目線でなく、一緒に行く、ともに楽しむということが大事ですね。

戻ってこられる場所があるという安心感

千葉：地域貢献という観点では、日東精工さんはほかにはどんな活動をされているのでしょうか？

荒賀：もともと会社を創業した目的が地域の男性雇用の場を増やすことでしたので、創業理念のいのちばんが「地域に貢献する」となっています。高校を卒業していった進学で地域を離れても、また戻ってこられる場・働ける場があることは大きいと思います。それから大学生向けの奨学金を用意したり、綾部工業研修所を通して若い技術者を養成したり、具体的な例はたくさんありますが、現役でなく会社を辞めたOBの方がさまざまなシーンで地域貢献されていることが誇りです。

山崎：いろいろな地区で自治会長として日東精工出身の方が活躍されています。綾部市には日東精工さんやグンゼさんといった上場プライム企業の本社があり、こういったところでマネジメントをしっかり学んだ方が、定年退職後に、地域で活

躍されているのもありがたいです。

荒賀：会社に勤めているときは、業務ではないけれど、会社理念に沿って仕事をするわけですが、会社を離れたところで、自分の意志でということは、まさにホンモノであるわけで、OBの姿を見ながら、自分たちも律していきたいと思います。

奥村：子どもが親の姿を見て育つように、会社は先輩や上司、そしてOBの姿を見て育つわけですね。

山崎：霞が関などの官庁で若い人が離職する率が増えていると聞きますね。先輩や上司を見ていて、10年後、20年後、自分はそうはなりたくない、夢をもてなくなったというわけですが、地方にはじつはいろいろな可能性があります。昨年秋に『新しい「田舎生活」のすすめ～「移住立国あやべ」で見つけたワクワクのヒント41』という本が出版されているのですが、そのなかで日東精工の女性社員の方も登場され、いろいろな価値観をもった多種多様な人を紹介しています。昔は〈都会で一旗揚げた田舎に帰る〉だったわけですが、今は〈田舎に帰って、あるいは田舎で一旗あげる〉時代だといっています。

千葉：その本を拝読しました。ある女性の方が夢だった雑貨とおもちゃの店をオープンさせた。ただ正直、その店の収益だけでは生計が成り立たないので、午前中は運輸会社でパートで働いておられるのですが、午後は、自分のお店を開いて、いろいろなイベントなどもされて、コミュニティの場として成り立たせておられるんですね。賃貸料が高い都会だとできないけれど、地方だとそういうチャレンジがどんどんできるわけですね。綾部は「半農半X」発祥の土地ですが、「半〇半X」という選択肢が広がっているということでしょう。

山崎：都会だとチャレンジするにもお金がかかるし、失敗したときのダメージも大きい。しかし、地方都市だとリスクが小さいですし、ダメでも再チャレンジができる……

女性が活躍できる「場」を たくさんつくっていく

奥村：そういう意味で「場」がたくさんあるということですね。少しばかり自分の宣伝をさせてい

ただくと、今、絵本文化推進協会の理事長をしています。

絵本は次代、次々代につなげる大事なもので、「絵本専門士」という資格もあります。絵本の読み聞かせをするだけでなく、「こんなテーマの絵本はありますか」とか「誰々の絵本を探している」といった絵本に関するリクエストに応えられるプロなのですが、せっかく、この難しい資格をとっても、じつは活躍できる場が少ないのです。それで、私はもともと出版社に務めていて、書店さんや作家さんとの人脈があるので、それを最大限生かして絵本専門士の活躍の場を増やしていければと思っています。今回オープンした図書館は複合施設で、300名が集えるホールも見学させてもらったのですが、図書館さんと早速打ち合わせをさせていただいて、2024年の秋に綾部で絵本のイベントを実施できればと思っています。

荒賀：絵本専門士さんは女性の方が多いのですか？

奥村：7割が女性ですね。

荒賀：となれば絵本専門士の活躍の場が増えるということは、今、社会の課題となっている女性活躍の場が増えていくということにもなりますね。当社には障がい者雇用のための特例子会社「日東精工SWIMMY」があります。SWIMMYの社名はレオ・レオニの絵本『スイミー』から取ったものですが、この会社の社長は女性です。2030年には上場企業は女性役員の比率を30%にするという目標数値がありますが、女性が責任ある地位についてどんどん活躍していくようにするのも、当社の願いであり、課題です。

山崎：また新しい書籍を企画していて、今度のテーマは「あやべで輝く女性」です。詳細はこれからですが、たとえば綾部出身者には吉川茂仁香というカトリックの修道女がいて、この方は東京の聖心女子学院の校長時代に、美智子上皇后陛下をはじめ、国連難民高等弁務官の故・緒方貞子さんや作家の曾野綾子さんに影響を与えた人です。活躍しているのにこれまであまりスポットライトが当たらなかった女性、歴史上の人も、今の人も含め、女性に焦点を当てて、そういう人をロールモ

奥村傳さん。ポプラ社の社長、会長を退任後、NPO法人「絵本文化推進協会」を設立し、絵本や絵本専門士を普及する活動とともに、2023年からは大阪府豊中市に絵本のお店「PICO」をオープン。また長男の和之氏はステンドグラス作家で、綾部市図書館には和之氏の綾部を題材にした作品が展示されている



デルにどんどん女性活躍の場が増えていければと思います。

千葉：ポプラ社でも「コミック版世界の伝記」シリーズで、女性を取り上げています。ナイチンゲールやキューリー夫人といった有名人だけでなく、アメリア・イアハートという女性初の飛行士であったり、メアリー・アニングという女性発掘家だったり、いろいろなジャンルの女性を取り上げています。シリーズに収めたい女性がこれから次々生まれてくるといいですね。

荒賀：まとめになります。きょうの皆さんのお話をうかがっていて、やっぱり大事なのはワクワクする気持ち、自分が楽しむことなのかと思います。

奥村さんに最初にご紹介いただいた当社『人生の「ねじ」を巻く77の教え』のなかの51番では、徹底的に好きになる、ライクではなくラブの段階まで引き上げる大切さを説いています。

ビジネスも教育も、そしてまちづくりも、もちろん、ときにはつらいこと、我慢しないといけないことも多々あるわけですが、それでも、自分がやっていることに「愛」がなければ広がってもいけないし、つながってもいけないわけです。当社もこれからもたくさんのワクワクを提供していければと思いますし、またそこに働く多種多様な人たちがワクワクできる環境づくりに努めたいと思います。奥村さんが広められている絵本専門士の資格、ぜひ、自分もチャレンジして取得して、絵本の読み聞かせができるといいなと思いました。皆さん、ご多用のなか、ほんとうにありがとうございます。

「次代を創る『稼ぎ力』のある強いグループ企業へ」 ～「変えなければならない」ことを意識して収益力でもトップを目指そう～

昨年、当社は新中期経営計画「Mission G-second」をスタートさせました。2年目となる本年も引き続き4つの成長戦略（事業拡大・環境・人財・財務）を実践してまいります。企業価値の源泉は「成長」そして「稼ぎ力」です。初年度で見た課題を解決するために、競合他社を上回るブランド力、製品力、組織力を強化し、収益力でもトップを目指します。

今年は辰年です。辰（龍）は十二支の中では唯一の架空の生き物ですが、とても縁起の良い神聖な生き物です。2024年は甲辰^{きのえたつ}の年で「甲」は草木の成長を表す意味があり、植物が成長するようにどんどん勢いを増して増えていくという意味があるようです。そのため2024年は、昨年までの努力が実を結んで成就する年にしていきたいと思います。過去最高業績の実現に向け「Mission G-second」の目標達成を従業員一丸となって目指します。



当社代表取締役社長
兼COO
荒賀 誠

経営重点

Growth#1

事業拡大戦略

事業で稼ぐ！
総合力でターゲット攻略を

当グループ成長のためにもっとも重視する戦略です。組織を本部制としたことで、知識や情報の伝達・共有化がしやすくなり、セグメントの責任が明確となりました。グループを横断した事業セグメントごとにターゲットの売上目標を掲げ、事業の拡大を目指します。

シナジー効果がさらに伸長するよう効率的な活動を実践していきます。

Growth#2

環境戦略

信頼で稼ぐ！
社会の一員としての責任を

環境戦略は事業を通じてサステナブルな社会の実現に貢献し、ステークホルダーからの信頼を得るためのものです。サプライチェーンの川上に位置するモノづくり産業にとって、CO₂排出の削減は欠かせない取組であり、当グループはその責任を果たしていかなければなりません。今後、環境に配慮した新製品の市場投入なども視野に入れていきます。

Growth#3

人財戦略

知力で稼ぐ！
スキルアップを明日への活力に

人財戦略は労働生産性を指標として、組織力のアップや生産工程の効率化など当社の強みを伸ばすためのものです。良い人財を獲得するだけでなく、従業員各々のスキルアップも不可欠で、得られた成長感はモチベーションとなり活力につながります。

また人権尊重についての制度を導入し、当社の「人」を大切に考える考えを継承していきます。

Growth#4

財務戦略

効率で稼ぐ！
成長するための儲かる体質に

財務戦略はまさに「稼ぎ力」を体現化するものです。設備投資や研究開発、広告宣伝活動などを行うと、すべての部門で資金が流動します。成長のために投資は不可欠です。投資を「挑戦」と言い換え、〈挑戦をしてしっかりと対価を得て〉いきます。

企業価値を高めるための「稼ぎ力」を従業員全員が意識していきます。

新しい図書館にオリジナル 自動車型紙芝居収納ワゴンを寄贈

2023年11月25日に綾部駅北口に綾部市図書館がリニューアルオープン。図書館へは、2015年から当社関連の書籍印税を原資として児童書を毎年寄贈してきましたが、今般、リニューアルでスペースが広がったことを記念して、大型絵本・紙芝居などが収納できる自動車の形をしたオリジナルのワゴン(棚)をプレゼントしました。ワゴンにはかわいい「ねじ」も施されていて、早速、子どもたちのお気に入りとなったようです。当社ではこれから次代の子どもたちが生き生きと過ごせるために、積極的にサポートしてまいります。



上は自動車型収納ワゴン
下は贈答品目録を山崎善也綾部市長(左)にお渡しする当社代表取締役社長荒賀誠(右)

受験生応援ゆるみ止めねじ プレゼントキャンペーン始まる

当社の樹脂用ゆるみ止めねじ「ギザタイト」を、ゆるまない＝集中力が持続して実力が発揮できるシンボルとして受験生にプレゼントするキャンペーン。今年度も受付を開始し、すでにたくさんの個人ご応募のほか、学校関係などからも問い合わせをいただいています。昨年度は中学校、高校だけでなく、国家資格を受験する4年生に贈りたいという大学からのご依頼もあり、年々、応募者の幅が広がっているように感じます。今年度最終、第3回の応募受付は2月1日からです。身近に受験生のおられる方はぜひご応募ください。



詳しい応募方法や昨年度の
応募者の声などはこちらから▶

綾部市民駅伝に9チームが参加 たすきをつなげました

2023年11月26日に日東精工が本社をおく綾部市で「第39回綾部市民駅伝競走大会」が開催され、当社ならびにグループ会社の日東精進から、一般男子の部に9チームがエントリーしました。とくに今年はインドネシアなど海外からの技能実習生だけで構成したチームも参加、地域スポーツ振興を盛り上げると同時に国際交流にも寄与しました。

ねじはモノとモノをつなげるものですが、駅伝では人がたすきをつなげていきます。日東精工関連の9チームもすべてたすきをつなげることができました。



上／駅伝に参加した選手全員で記念撮影。
下／当社キャラクターのねじっくんも併走!?

さまざまな展示会で 当社の強みを訴求しています

2023年11月15日から11月17日までインテックス大阪で開催された「第10回〔関西〕二次電池展」に出展しました。上が当社、下は当社グループ会社日東精工アナリテックの展示ブースです。

この一角を当社、伸和精工、ケーエム精工、日東精工アナリテックが出展し、EV化などでこれからはますます需要が高まる二次電池における、日東精工グループの強みを訴求しました。

また11月29日から12月1日まで東京ビッグサイトで開催された「2023 洗浄総合展」ではマイクロバブルシャワーシステム「バブリス」などを展示。同時開催された「2023 国際ロボット展」でも、安川電機様およびファナック様ブースにて、当社の協働ロボット用ねじ締めユニット「PD400シリーズ」を展示いただきました。



【誠の言霊⑨】

熱い心と冷たい頭をもて

荒賀誠

N HKで緒方貞子さんのことが
特集されていました。4年前

に92歳で亡くなりましたが、長く
国連難民高等弁務官を務められ、世
界中から愛された日本人です。彼女
が就任する以前はお役所的、事なか
れのだった難民対応をがらりと変え、
ときにはホワイトハウスにまで出向
いて米国大統領に直談判するほどの
行動力。スタッフからは〈親方〉と
慕われていました。緒方さんは難民
の声にしっかりと耳を傾け、その思い
に真摯に応えようと努められた、そ
して結果、生まれた子どもに「彼女
のようになつてほしい」と願いを込め
て「オガタサダコ」と名付ける難民

も多く、世界中に「オガタサダコ」
さんが多数存在するそうです。

その緒方さんが現地視察に行かれ
車に乗るときは、必ず助手席に座わ
っていました。偉い人は後部席が一
般的ですが、彼女は、前のほうが視
界がいい、全体を見渡せるからと、常
に前向きにアンテナを張っていたの
です。標題の言葉も彼女の言葉です。
前のめりになって視野を狭めるの
ではなく、熱い想いをもって、積極
的に前に出て視野を広げていく。新
年を迎え、このリーダーシップを、
皆がそれぞれの役割のなかで見習っ
ていけるといいですね。

題字・文 代表取締役社長 荒賀誠

※当社はサステナビリティ経営を推進、国連のSDGsに賛同し、世界から戦争、紛争がなくなり難民が生まれなくなることを願っています。

「幸せ」を見つけるヒント — 1月

ねじと万華鏡、上場企業と小さな店

昨秋、フィンランド発祥の「クリーニングデイ」
が綾部市内数か所で開催されました。これはリサイ
クルイベントの一つですが、単に不要になったものを
を処分・売り買いするというのではなく、モノに
「新しい価値」「新しいストーリー」をつけて、次に
つなげていくというのがコンセプトでした。

綾部のまちなかにある「ことばの泉・ねじ文庫」
も会場の一つで、そこではサンプルなどに使われ、
その役割を一旦終えた日東精工のねじを主材料にし
た「ねじ万華鏡キット」も販売。ねじと万華鏡とい

う意外な組み合わせが好評を
博したという報告を受けてい
ます。モノづくりはまさに多
面的で、〈ゼロから新しいモノ
をつくるだけでなく、モノと
モノとの組み合わせで新しい
モノが生まれる〉という一例
を紹介したものとなりました。

「クリーニングデイ」は雑貨屋さんの若い女性店主
が中心になってはじまったものですが、地域の小さ
なイベントでも、いろいろ発見がありますので、常
にアンテナを張り巡らせていきたいものですね。



万華鏡のなかにねじを入れる
と新たなアートが生まれる

日東精工代表取締役会長
綾部商工会議所会頭

材木正己



発行：日東精工株式会社経営戦略本部経営企画室

当社ホームページでは本ニュースレターのバックナンバーほか、事業や新製品のより詳しい情報を閲覧いただけます